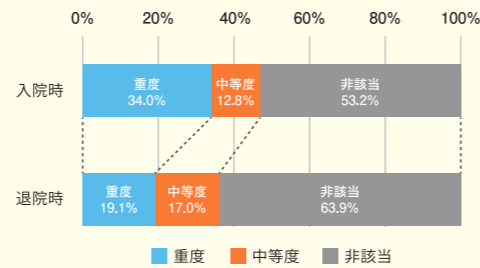


数字でみる錦海リハ

入院患者さんの栄養状態の改善に努めています

2024年6月1日～9月30日の間に入院して且つ退院された42名の患者さんのGLIM基準を用いた低栄養診断結果です。入院時は約半数の方が低栄養に該当していますが、退院時には10%減少していました。急性期治療のため絶食期間があった方、痛み等での食欲不振で食量が低下した方などが、当院では食べられるようになったり、筋肉量が増加したことで、低栄養も改善がみられています。サルコペニアの改善は頭書の入院期間内では難しいことが多いですが、食事をしっかり食べることで、GLIM基準で診断する低栄養は改善しやすいかもしれません。

GLIM基準を用いた低栄養診断結果
(2024年6月1日～9月30日の間に入院して且つ退院された患者:n=42)



専門雑誌・書籍掲載

- 角田賢(医師・病院長)
リハビリ部門リレー連載27 2024年診療報酬改定におけるリハビリテーション病院の経営戦略
大逆風の回復期リハ病棟、どうやって生き残る-第1回-
Visionと戦略 Vol.244 2024年6月号、保健・医療・福祉サービス研究会、2024.5
- 角田賢(医師・病院長)
リハビリ部門リレー連載28 2024年診療報酬改定におけるリハビリテーション病院の経営戦略
大逆風の回復期リハ病棟、どうやって生き残る-第2回-
Visionと戦略 Vol.245 2024年7月号、保健・医療・福祉サービス研究会、2024.6
- 大森恵子(看護師)
チームアプローチによるADL向上:看護師の重要な役割と他職種との連携
リハビリナース第17巻4号、メディカ出版、2024.7.10

- 濱崎喬之(言語聴覚士)
吃音支援の基礎・基本
令和6年度第1回鳥取県通級指導担当者言語部会研修会、鳥取県特別支援教育研究会主催、
2024.8.23、米子市
- 濱崎喬之(言語聴覚士)
ことばの発達を促す声かけの方法
キッズタウン子育て支援センター育児講座、キッズタウンかみことう子育て支援センター主催、
2024.8.29、米子市
- 神坂綾(社会福祉士)
実践報告「ソーシャルワーカーの人材育成 再考」
2024年度第1回 保健医療委員会研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2024.9.7、米子市
- 松原岳洋、永岡直充(理学療法士)
失語症を呈する対象者に対する身体介助
令和6年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修会、鳥取県主催、2024.9.29、鳥取市

外部講演

- 濱崎喬之(言語聴覚士)
言語聴覚士から見たことばの発達
令和6年度主任児童委員連絡会、主任児童委員連絡会主催、2024.4.4、米子市
- 木嶋恵美(管理栄養士)
食べる機能と食形態・経口摂取可否のミスマッチ 回復期～生活期では
第16回山陰摂食嚥下研究会、山陰摂食嚥下研究会主催、2024.5.12、米子市
- 平野正樹(作業療法士・リハビリ技術部主任)
鳥取JRATについて 震災対応でOTとしてできること
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
鳥取JRATについて 実際の活動内容の報告
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
生涯教育制度2020の概要と解説
令和6年度鳥取県作業療法士会総会後研修会、鳥取県作業療法士会主催、2024.5.19、オンライン
- 藤井春美(看護師・副院長)
人材管理Ⅰ「人材育成の基礎知識」
令和6年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル、鳥取県看護協会主催、2024.6.6、米子市
- 濱崎喬之(言語聴覚士)
児童生徒の特性に応じた指導の実践について
令和6年度第3回西部通級担当者及びLD等専門員の研修会、鳥取県特別支援教育研究会、
2024.6.10、米子市
- 島山亮太(言語聴覚士)
失語症と合併しやすい障害について/福祉制度概論
田村篤人(言語聴覚士)
コミュニケーション方法の選択法
令和6年度鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修 アドバンスコース、鳥取県主催、
2024.7.14、米子市
- 田村篤人(言語聴覚士)
失語症概論
令和6年度 鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2024.7.21、鳥取市
- 川上絢司(作業療法士)
作業療法生涯教育概論
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
職業倫理
令和6年度前期現職者共通研修会、鳥取県作業療法士会主催、2024.7.27、琴浦町
- 角田賢(医師・病院長)
回復期に必要なICFとニーズの知識
第172回全職種研修(レギュラーコース)、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2024.8.17、オンライン

学会発表

- 岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
JRAT R-スタッフとしての活動経験から
松橋菜美子(言語聴覚士)
地域における高齢難聴者の支援体制構築に向けて(第1報)～当院回復期リハビリテーション病棟入院患者
者における聞こえの実態と今後の課題～
第25回日本言語聴覚学会in兵庫・神戸、2024.6.21-22、兵庫県
- 永岡直充(理学療法士)
当院に入院した脳血管疾患を持つ症例の%努力性肺活量と日常生活動作との関連性
足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)
複数回転倒件数からみた入院時サルコペニア評価における細分化の重要性
第56回中国四国リハビリテーション医学研究会、2024.7.15、鳥取県
- 杉原健太郎(理学療法士)
通所リハビリテーション利用者数の変動状況からみた事業所の運営課題
仙田春菜(作業療法士)
錦海リハビリテーション病院における運転再開に向けた取り組みについて
西田萌音(言語聴覚士)
在宅生活に向けて、家族とのコミュニケーション環境の調整が効果的であった一症例
第22回日本臨床医療福祉学会、2024.9.20-21、京都府
- 新和なつみ(作業療法士)
課題指向型アプローチの関わりで一人での調理動作が再獲得できた一事例
第48回全国デイ・ケア研究大会2024in札幌・北海道、2024.9.20-21、北海道

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針: わたくしたちは
回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300【代表】
FAX 0859-34-2303



KINKAI NEWS

REHABILITATION HOSPITAL



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行: 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL: 0859-34-2300【代表】
E-mail: kinkai-hp@kohoeh.jp
URL: https://www.kinkai-rehab.jp

2024 VOL.20



SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院 栄養と回復期リハビリテーション病棟

1日3時間のリハビリテーションをしっかりと 実施していただくためにはまず十分な栄養補給が重要

「腹が減っては戦はできぬ」という言葉があります。語源はどこだろうとネットで調べてみると北条氏綱の言葉であるとか、東郷平八郎が言ったとか、様々な逸話が見られます。2024年春の診療報酬改定では、栄養・口腔ケア・リハビリテーションの一体的なサービス提供体制の重要性がすべてのステージの医療で強調されるものとなりました。急性期病院から当院に転院してきた入院患者さんの大半は低栄養と判定されるのが現状で、1カ月足らずの急性期病院の入院期間の間に5kg以上の体重減少をきたしている例も珍しくありません。当院では入院時にInBodyを用いて体組成を測定していますが、脳血管障害、整形疾患、いずれの場合でも下肢の筋肉量低下が目立ちます。

1日3時間の訓練時間、しっかりと実施していただくためにはまず十分な栄養補給が重要です。疾患や機能障害、活動能力低下といったものに対する戦い(いくさ)に必要なエネルギーやタンパク質が提供されなければ、ダイエット病棟、激ヤセ養成病棟になりかねません。



InBody S10(高精度体成分分析装置)

管理栄養士が当院の全入院患者さんについて栄養状況、 食事の摂取状況をチェックしています

20年以上前、当時勤務していた急性期病院の管理栄養士さんを病棟で見かけるのは糖尿病の栄養指導のときだけでしたが、その後NST(栄養サポートチーム)が導入され、そのメンバーとして一緒に病棟回診をするようになり、仲良くなりましたが、彼らがチェックできるのは、対象となったごく一部のみで、病棟全体の実際の摂食状況や活動状況を確認することはほとんどありませんでした。彼らの食事や栄養に関する知識は料理も何もできない私からみると驚異的で「神業」と感じるほどのものでしたが、その能力を十分に引き出し、患者さんのために活かすことができずしては。



当院厨房にて患者さんの栄養状態改善に向けた食事を準備しています

現在では、管理栄養士さんが当院の全入院患者さんについて、栄養状況、食事の摂取状況をチェックしてくれています。リハビリの実施内容についてもセラピストと連携し食形態の変更、カロリーアップの必要性など、私達医師に対して様々な意見をくれるようになりました。栄養の改善がなければ、頭は働かず、身体も動きません。

今後は入院中だけでなく、元気になって退院したあともこの栄養状態の維持・改善へむけたサポートをどう充実させていくかも重要性がどんどん増していくでしょう。家に帰ってからも「腹が減っては戦はできません」。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

What's New

第47回研究会in米子のティザーサイトを公開しました
角田賢病院長が大会長を務める「回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究会in米子」WEBサイトを一足先にティザーサイトとして公開しましたのでぜひご覧ください。
会期: 2026年2月6日～7日
会場: 米子コンベンションセンターBIGSHIP・米子市文化ホール



ティザーサイトは
コチラから

SPECIAL 最前線 2

回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子「プレ講演会その2」を開催しました

このたび当院角田賢病院長を大会長に、「回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子」を、2026年2月6日(金)・7日(土)の2日間にわたり、米子コンベンションセンターBIGSHIP・米子市文化ホールにて開催させていただくことになりました。当地米子に全国より2,000名を超える参加者をお迎えする予定です。

この米子大会に先立つプレ企画の第2弾として、6月8日(土)に地元山陰の回復期リハビリテーション病棟協会 会員病院様をはじめとして、広くリハビリテーション医療に係る関係者の皆様を対象に、開催案内を兼ねた「プレ講演会その2」を米子コンベンションセンターBIGSHIPにて開催しました。

当日は特別講演として、医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院 理事長 岡本隆嗣 先生(回復期リハビリテーション病棟協会 常任理事)を講師に、「回復期リハビリテーションにおけるICFの活用とチームアプローチ」のタイトルでご講演いただき、東は鳥取市、西は益田市から、会場内ほぼ満席となる140名余りの皆様に参加いただき盛会裏に終了することができました。



角田賢 病院長による開会あいさつ

回復期リハビリテーションにおけるICFの活用とチームアプローチ」のタイトルでご講演いただき、東は鳥取市、西は益田市から、会場内ほぼ満席となる140名余りの皆様に参加いただき盛会裏に終了することができました。



医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院 理事長 岡本隆嗣 先生による特別講演

微力ではありますが米子大会を通じまして地域のリハビリテーション医療発展にも寄与すべく職員一丸となって準備を進めてまいります。

次回プレ講演会「その3」

日時:11月22日(金) 18時30分~20時
会場:米子コンベンションセンターBIGSHIP小ホール
特別講演「回復期リハビリテーション医療のスタンダード(標準)について考えるー脳卒中を中心にー」
講師:近藤 国嗣 先生(東京湾岸リハビリテーション病院 病院長)
参加費:無料

申し込みフォーム



SPECIAL 最前線 3

リハビリテーション技術部の紹介 管理栄養士のお仕事

回復期リハビリテーション病棟での 管理栄養士の仕事を紹介します。

今年度の診療報酬改定により、回復期リハビリテーション病棟入院料1について、入退院時の栄養状態の評価にGLIM基準※を用いることが要件化されたことに合わせ、当院でも6月から本格的にGLIM基準を用いた栄養状態の評価を開始しました。必要となるMNA-SFでのスクリーニングや、InBodyS10を用いた筋肉量測定、下腿周囲径の測定はこれまでも各職種で担っていたため継続しています。導入するにあたり、GLIMで定められていない低BMIや筋肉量減少についての数値は当院での基準を検討し、使用しています。誰でも簡単にできるスクリーニングとは異なり、専門家が行うべきGLIM基準による評価は判断に苦慮しましたが、様々な研修等を受講することでスムーズに行えるようになってきました。診断結果に合わせ、患者さんの栄養状態改善に向けた食事内容を多職種と検討しています。

※ GLIM基準とは「Global Leadership Initiative on Malnutrition」の略。世界の主要な臨床栄養学会が協力し、提唱した新しい成人の低栄養診断基準。



管理栄養士による栄養指導の様子

患者さんに喜んでいただけるような 特別メニューの提供も積極的に実施しています。

季節に合わせた食材を使用し、七夕やクリスマス、おせちといった行事食や、山陰で獲れた鮮魚の刺身などの提供も行っています。年2回は調理師が考案した握り寿司やうな丼などの特別メニューも実施しており、患者さんからご好評を多くいただいております。しっかり食べてしっかりリハビリが行えるようなお食事の提供を目指しています。



和食の専門調理師による旬の食材を使用したスペシャルメニュー

TOPICS 01

【院内研修のご紹介】 廣江研 会長 講話を開催しました

錦海リハビリテーション病院開院(2006年3月21日)から丸18年が経過し、改めて廣江研会長より錦海リハビリ病院創立者として開院に懸けた想いや期待について、院内研修としてお話しいただきました。廣江研会長は「この地域の方々に質の高いリハビリテーション医療を提供したいと、錦海リハビリテーション病院の設立を目指した」、「単に医療の提供に留まらずいかに地域に根づき地域に貢献できるのが重要」と話されました。

当院設立の想いにも触れ、更に良質なリハビリテーション医療を地域に提供すべく努力を惜まず研鑽を続けていきたいとの決意を新たにしました。



6月3日開催「会長講話」 社会福祉法人こうほうえん 廣江研 会長

TOPICS 03

厚生労働省より感謝状をいただきました ~令和6年能登半島地震における当院職員の現地派遣について~

令和6年能登半島地震に際し、職員をJRAT隊員として派遣したことに対して当院も厚生労働省より感謝状を頂戴しました。

角田賢 病院長

まずは能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興と皆様の安全・健康をお祈り申し上げます。この度、厚生労働省より感謝状を頂戴しましたこと厚く御礼申し上げます。また、発災直後より現地で被災地支援に全力を尽くした職員にも心より感謝するとともに、微力ではありますがこれからも職員と共に災害支援活動に協力して参ります。



JRAT R-スタッフとして派遣された平野正樹 作業療法士(写真左)・岩田久義 言語聴覚士(写真右)と角田賢 病院長(写真中央)

TOPICS 02

病院機能評価更新受審キックオフ会議を開催しました

6月24日(月)「病院機能評価更新受審キックオフ会議」を開催しました。10年前に初めて病院機能評価を受けて以来、途切れることなく病院機能評価を活用した業務改善に努めてまいりました。来年度2025年6月には5年に1度の更新審査が控えており、職員全員がその目的や意義を再確認し、準備への意識を高めるために企画しました。

当日は、角田賢病院長から力強いキックオフ宣言があり、廣江晃理事長からは激励の言葉をいただきました。また、日本医療機能評価機構より講師もお迎えし、「病院機能評価について」の講演もいただき、職員皆で決意と目標を共有しました。



職員へ激励を送る 社会福祉法人こうほうえん 廣江晃 理事長

TOPICS 04

鳥取県理学療法士会より善波吉人事務長へ 感謝状が贈られました

2024年9月7日、米子コンベンションセンターにて鳥取県理学療法士会設立50周年記念式典が開催され、当院の善波吉人事務長が地域貢献活動として取り組んできた、鳥取県災害リハビリテーション支援協会(鳥取JRAT)事務局長としての功績が認められ感謝状が贈呈されました。

善波吉人 事務長 兼 地域医療連携室長(社会福祉士)

鳥取県理学療法士会様の設立50周年にあたり感謝状を賜りましたこと光栄に存じます。ご厚情に深く感謝申し上げます。微力ながら県内の災害リハビリ支援体制の構築に向けたお手伝いをするなかで、このような評価をいただきましたことは、私にとって大きな励みとなりました。



善波吉人 事務長 兼 地域医療連携室長